

社会福祉法人 高水福祉会

平成29年度事業報告書

事務局

常岩の里ながみね

のぞみの郷 高社

北信圏域障害者総合相談支援センター

北信圏域障害者生活支援センター

ふっくら工房ふるさと

発達サポーターズねくすと／わんすてっぷ

サービスセンターりんく

●29年度 事業計画と取り組み

【役員会等の実施】

- ① 理事会 ②評議員会
- ③ 担当部課長会議
- ④ 法人内部監査 ⑤評議員選任解任委員会

【事業計画・予算執行状況確認】

一拠点3か月に一度の頻度で確認・軌道修正に繋げる。

【経営推進会議開催】

法人中長期ビジョンを共有し方向性を合わせ、数字的裏付けをおこなう中で時代に即したサービス提供に努める。

【広報活動の充実】

昨年度効果のあった新聞折込及び情報発信サイトを活用し、興味を抱く者の増加に結び付ける。

【人財育成の強化】

人を育てる仕組みづくりが体系化していけるよう、チームを立ち上げ具体的に検討する。

【事務処理業務の更なる一本化】

インターネットバンキング活用により業務効率化・省力化・経費削減に繋げる。

●29年度 経過と成果

【役員会等の実施】

- ① 6/1、6/19、10/26、3/20
- ② 6/19、11/14、3/29 ③5/22、12/25
- ④⑤ 5/16

【事業計画・予算執行状況確認】

試算表を基にあがたグローバル税理士法人による会計指導を毎月実施。数字が語る計画の執行状況を見る視点が培われた。

【経営推進会議開催】

月一回程の頻度であがたグローバル税理士法人が所長会議に加わり、27年度作成した中長期ビジョンを再確認し各事業所のアクションプランに繋がるような話し合いをし、30年度10月を目標とした法人組織改編の基礎をつくることができた。

【広報活動の充実】

- ①試験に合わせ、新聞折込広告を作成。
- ②試験は3度実施。前年度より1回の増。

1次試験日	受験者数	採用	正規	臨時
7/15	5名	新卒	5名	1名
8/19	7名	転職	3名	2名
10/21	3名			

※第1回目は新卒者のみを対象。

- ③採用活動用のリーフレット及びクリアファイルの作成開始。

【人財育成の強化】

キャリアパスPJを立ち上げ素案を作る事ができた。働きやすい環境づくりの一環として、県補助金事業により社会保険労務士の力を借り、就業規則等の見直しをおこなった。

【事務処理業務の更なる一本化】

インターネットバンキング活用により、一回当たりの振込手数料を約半額に抑える事ができた。

【短期入所】

定員 3 名

定期的なご利用を中心に、レスパイトとして実施していく

【短期入所】

・3 室、実人数8名、年 264 日(稼働率 24.1%)

・ご家族支援としての定期レスパイト

・将来を見据えた家以外でのお泊り体験

・緊急短期入所受入れの実施(その後、ご本人の将来の生活像を見据えたアセスメントの為、入所に変更)

【その他】

・事業所からの虐待通報案件…1 件

当事業所内虐待防止委員会より当該市の虐待防止センターへ通報。指示の下、書面と電話での説明をおこない、虐待とはならず。法人第三者委員へ説明。

・個別支援計画…

個別支援計画作成会議の開催。複数の職種の視点から計画案を練ることができた

・わらおうか

常盤小学校 3 年生との定期交流も 4 年目。高学年になった子供たちとも交流が続いている

29年度 のぞみの郷高社 ま〜ぶる事業報告書

<p>事業計画と取り組み 【生活介護事業】 さをり織りをやりたいと思う方が織れるようになる支援。さをり織りが出来た喜びを感じ意欲や自信に繋がる支援を行う。</p> <p>・製品作り 利用者さんの織ったさをりの布を織った方の個性を大切に作品作りを心がける。</p> <p>・販売 ま〜ぶるで常設の販売も出来るよう「店」作り行う。また、織りでつなげる仲間の会との販売会をすすめる。利用者さんが販売出来るようにしていく。</p> <p>・作業賃金 売上金より工賃の支払い基準に従い作業賃金をお支払いする。売り上げ状況により2期に分け分配する。</p>	<p>●28年度 実績 【生活介護事業】 利用定員 10名 登録者数 14名 1日平均人数 8名</p> <p>【売り上げ・作業賃金等】 (売り上げ額) 前期 405,468円 後期 487,340円 計 892,808円</p> <p>(本人支給金) 前期 221,010円 後期 219,150円 計 440,160円</p> <p>*個人の支払いについては、売れた作品の織った方縫製した方それぞれの作者に毎月お支払い</p>	<p>●29年度の経過と成果</p> <p>利用定員 10名 登録者数 14名 1日平均人数 8名 さをり織りを自分なりの表現方法で好きなように楽しみ、もっとやってみたい気持ちや出来る自信を持てるよう、その方に必要な治具も用意しながら支援を行った。 また各イベント、販売会に出向き販売を実施。 *随時、見学・体験、特別支援学校生徒さんの実習受け入れ行った。</p> <p>【売り上げ・作業賃金等】 (売り上げ額) 前期 412,285円 後期 279,830円 計 692,115円</p> <p>(本人支給金) 前期 245,850円 後期 153,650円 計 399,500円</p> <p>30年3月13日までの売上合計以降は30年度へ計上</p>
---	---	--

●29年度 事業計画と取り組み

【3障害児・者相談支援事業】

- ① ライフステージが途切れないように、家族・関係機関と連携し総合的な相談支援を行う。
- ② 自立支援協議会の事務局を担い、安心して暮らせる地域作りを目指す。

【特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

- ③ サービス等利用計画の作成やより質の良いプランやモニタリング報告書作成に繋げる。

【地域あんしんコーディネーター事業】

- ④ 24時間・356日対応できる相談支援機能として地域あんしんコーディネーターを市町村予算で2名配置。

【就業・生活支援事業】

- ⑤ 一般企業で働きたい人、働き続けたい人の相談・定着支援を様々な機関と連携し行う。

【中野市精神障がい者事業】

- ⑥ 家から一歩出る居場所の提供を通じて、お昼作り・おやつ作りの活動をメインに次のステージに繋ぐ支援を行う。

●29年度 経過と成果

【3障害児・者相談支援事業】

- ① 子どもから大人までライフステージが途切れない支援の継続を行うことができた。
- 相談支援実人数 1238人
- 相談支援述べ件数 5609人
- ② 年間210回開催(協議会・部会・運営会議含む)各市町村と協力し活発な地域の仕組み作りの場として自立支援協議会の下支えとして事務局を担う。

【特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

- ③ 相談支援専門員 5人
- 者の計画作成実人数 322人
- 児の計画作成実人数 30人

ネットワーク会議やGSV研修に参加し社会資源の開発に繋げている。

【地域あんしんコーディネーター事業】

- ④ コーディネーター2名の人件費を6市町村からの予算を頂き、緊急時の対応や危機が起きないような地域の土台作りを、自立支援協議会を足場に相談支援体制の強化を進める取り組みに繋げることができた。

延べ人数182人 相談件数189件(内緊急9件)

【就業・生活支援事業】

- ⑤ ○就職者数30件
- 職場実習斡旋27件
- 相談・支援件数4438件

就職件数より継続して働き続けるための定着支援に着目されるようになってきている。多くの支援者が関わったネットワーク作りとして、基幹相談との連携強化や特別支援学校・高等学校との連携、就労移行・B型事業所とのチーム支援、就職希望者のニーズ把握に繋げることができた。

【中野市精神障がい者事業】

- ⑥ ○登録者 32名 ○1日利用者数約8人
- 延べ利用者数 年1422人
- 週5日の昼食作りや月2回のおやつ作りを実施し、その他決まったプログラムは用意せず利用者の意見を聞きながら活動を支援する。
- 利用時間も毎日利用される方からお昼時間や通院の帰りや体調に合わせて利用されている。

【短期入所事業】障がい児を対象に日常生活の支援を行う。

登録者数	5名	4名
利用回数	12回	15回

【福祉有償運送】公共交通を利用しての移動が困難な方を対象に有償で行う車による移送サービスを適切に運営する。

登録者数	116名	135名
利用回数	4314回	4976回

かすたねっと

【生活介護 児童発達支援事業】

重度心身障がい児・者の方が日中通う場として、医療と連携しながら、リハビリや個別活動、社会参加の場を提供していく。

	28年度	29年度
生活介護	12名	13名
児童発達	2名	2名

その他

【支援会議】

	28年度	29年度
総会議数	587回	739回
参加	424回	507回
欠席	163回	232回

【短期入所事業】

見学、体験が数件あったが、昨年度同様に、定期利用が定着している。

【福祉有償運送】

遠距離(栄村 山ノ内町)の送迎、通勤通学に伴うご依頼でお断りするケースや市町村と協議中の案件が増加している。

送迎の際に支援が必要な方に対しては、福祉サービス(居宅や移動支援等)を適用して頂くことにより計画的な運営の見極めを始めた。

【生活介護 児童発達支援事業】

日常の支援を日々確認しながら、節目節目に外部委託による活動を提案することによりメリハリのある風景ができつつある。また、地域資源を活用した外出を年間を通して実施できつつある。

児童発達支援事業は新規で2名のご利用があった。また地域の保育園に通われている児童に対して、保育所等訪問で3名の継続的な支援を行っている。

【支援会議】

新規利用者増加等に伴い、支援会議も増加傾向にある。欠席については、相談センター、計画相談員と相談し、参加や情報共有のあり方を見極めている。

●29年度 事業計画と取り組み

【自立訓練(生活訓練)事業】 定員 6名
『アセスメント』と『アウトリーチ』

ご本人が長年抱えてきた生きづらさ、困り感を真摯に受け止め、専門的な視点からのアセスメントを丁寧に行い、個々人に合った適切なコミュニケーション方法を見つけ出します。日中に限らず生活全般にアプローチし、ニーズを的確に捉え、生活の充実を目指します。

また、関係機関と協力し、地域に広汎性発達障害の理解者を増やす取り組みにも力を入れていきます。

【生活介護事業】 定員 20名
『成功体験』と『充足』

安心、安定した生活を大切にしながらも、ご本人のストレングスに着目し、その力を様々な場面で発揮できるように活動を提供いたします。施設内での活動に止まらず、地域へ飛び出し、数多くの成功体験から日々の充実感を高めていただくことを目標とします。

また、社会参加をキーワードとした活動を提供し、地域の中で当たり前活躍する姿を展開していきます。

【就労継続支援B型事業】 定員 14名
『構造化』『社会参加』『自己肯定感』

ご本人の想いに寄り添ったアセスメントに基づき、構造化をベースとしたご本人にわかりやすい作業環境を準備し、本来持っている力が発揮できるよう支援いたします。工賃を獲得し、周囲からの評価を通じて日々の充実感、自己肯定感を高めていただくことを目的とします。

●29年度 経過と成果

【自立訓練(生活訓練)事業】 実利用人数 6名
1日平均 3.9人/日

日々の支援を通してご本人と向き合い、アセスメントを繰り返す事で、個々の課題に対して障がい特性に合った支援を提供してきました。

また、訪問型自立訓練を2名の方に提供し、ご本人像の把握から支援に結び付け、自立を促してきました。

更には、他事業所の困り感のある利用者さんへの支援内容等を明確にし、どの様に支援をしていくかアドバイスを提供する等のアウトリーチを3件提供致しました。

法人内での職員研修にて、自閉症研修初級講座を3回実践講座を2回、更には事例検討会を1回実施し、好評を得る結果となっております。

【生活介護事業】 実利用人数 17名
1日平均 14.8人/日

ADLの向上や受注作業に率先して取り組める様に、日々の活動の中に構造化の考えを取り入れ、意欲的にご本人が課題に取り組める様に工夫してきました。中にはコミュニケーションをより一般的に執り行える様にカード等を用いて成功体験として獲得出来る様に段階を踏みながら支援を進めてきた方もいらっしゃいます。

また月1の頻度で近隣の飲食店等にグループ単位で出掛け、ご自分の力もしくはエンパワーメントしながら好きな食べ物や楽しい活動を選択出来る様に支援をしてきました。

【就労継続支援B型事業】 実利用人数 7名
1日平均 4.1人/日

ご本人のニーズに添った働き方の提供を行えるよう、関係機関との連携、事業所内での調整を大切に行いました。きのこキャップの清掃、組み立て、DMの作成

豆の選別、グループホームの清掃等行った。

工賃・・・228,271円(年間総額)

1人当たり工賃月平均・・・2,686円

B型で行っている作業を生活介護や自立訓練の方にも提供し、働く喜びやその人の可能性を広げることにつながった。

インフルエンザ予防接種について

利用者については 12 月～3 月までの朝の検温を行う。

職員への接種率向上は看護職連携での指示もあり接種のとりまとめも行った。

その人らしさや、社会参加が実現できるような余暇を送る。

【短期入所事業】

介護者、利用者それぞれの休息のために支援を行うさんぼみち・かおる荘・エムハイツ3か所実施
地域資源としての事業の必要性和、受け入れ体制を整備

職員 50 名中接種者 36 名
接種率 72% (前年度 49%)

- ・中野市育成会…本年度対象者 12 名年7回参加。
- ・北信ブロックレクリエーション大会(北レク)
29 年 9 月 24 日(日)職員3名、りんく利用者 15 名参加
他事業所より利用者 8 名参加
- ・スポーツ大会(北信ブロック)…利用者 15 名参加
- ・他事業所主催のレクリエーション企画
ながみね企画…5 月交流ウォーク、10 月秋桜祭
12 月忘年会(4 名程度参加)
- ふっくら工房ふるさと企画・フレッシュサタデー
5 月・8 月・12 月(10 名程度参加)
- ・利用者が希望される個別外出への対応
平日外出が10件月・土日祝外出14件(1カ月当たり) 移動支援請求・月概ね44時間。
- 外食を含む日用品・嗜好品の買い物等のほか、温泉など希望される方も少数だがいた。

【短期入所事業】

マンツーマン支援の希望者はいるが、受け入れ態勢十分に作れず予約の受け入れ方法を変更した。
結果的に、さんぼみちの受け入れが少なくなった。
エムハイツは、県の実地指導により、職員配置の問題で9月より予約の受付を中止。(3月末)

かおる荘年間	泊数	実人数平均
(合計)	108	5

ホームさんぼみち年間	泊数	実人数平均
(合計)	17	1～2

エムハイツ 4月～8月	泊数	実人数平均
(合計)	12	1～2